

## 1 研究主題

### 「主体的・対話的に学び、考えを深める児童の育成」 ～ 新しい学びを既習と結び付けて問題を解こうとする姿の育成 ～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学校教育目標から

21世紀は「知識基盤社会」の時代であり、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、急速に変化している。このような予測困難な時代を迎える中で、本校での6年間の学びが社会生活の礎となるよう、教育目標を「心身ともに健康で、主体的・創造的な児童の育成」として定め、「本気で学び創造する」児童の育成に努めている。この目標を具現化するために、授業はもちろん各種行事や児童会活動、地域の活動等で主体的に「表現する場」を設けてきた。また、学校生活の基盤として、勤堂塾塾則に則した教育活動、語先後礼の挨拶、自問清掃等を掲げている。昨今、加速度的に変化する情報化社会に順応するために必要な課題解決能力の育成を目指して、未知の問題に対峙していく力、日々の学びを社会生活に関連させていく力に重点を置いている。

### (2) これまでの研究の経過から

昨年度、全国学力学習状況等調査から、算数用語を用いて説明することが不十分であった。そのため、三年計画で算数科の研究を進めてきた二年次は、Which問題を取り入れ、児童に考えを持たせた上での対話を促した。対話を重ねることで算数用語の曖昧さをなくし、洗練された表現に練り上げることを目指した。一年次での「根拠を筋道立てて明確に表現できる」児童の育成の取り組みとも相まって、昨年度実施の県の評価問題の記述式問題において算数用語を用いて順序立てて解答する姿が見られた。

しかしながら、複数の情報を関連付けて見通しを持って問題解決したり、図形と式とを関連付け説明したりすることに課題が見られた。特に場面の状況を数理的に捉えることに苦手意識がある。さらに、ここ数年全国学力調査の質問紙調査や児童アンケートでは、算数科は大切であるが、好意的には捉えていない児童の割合が高かった。加えて、授業で学習したことが実生活に生かされていると感じている児童が少なく、算数科の楽しさを味わえていない現状が今もなお浮き彫りになっている。

### (3) 今年度の取組

昨年度、Which問題（選択型問題）を通して児童に考えを持たせてきた。そのことで、考えの焦点化を図り、話し合う時間を確保してきた。算数科においてWhich問題への一定の成果を得た。また、話し合う土壌づくりとして、塾則5タイムと称し、児童に視点を与えて5分間話し合う時間を設けた。児童同士で話し合わせるためには、何のために話し合わせるのか視点を与える必要性を学んだ。

今年度は、これまでの集大成として単元末に既習を用いた単元の発展問題（原勤問題）に取り組む。原勤問題では、本校児童が苦手としている、複数の情報を関連付けた場面を数理的に捉え、算数科の学びが実生活に生かされている内容を意図的に取り入れる。そのことにより、普段の生活で未知の問題と出合っても、既習を生かして筋道立てて問題解決していく論理的な思考を促し、日々の学びが社会生活に繋がっていると感じる学ぶ楽しさを味わわせたい。日々の実践においては、一年次や二年次で取り組んだ自分の考えに式と図や言葉を書くこと、児童相互の学びを育てる塾則5タイムに引き続き取り組む。

## 3 研究の内容

### (1) めざす児童の姿

【主体的】…見通しを自分の考えと繋げて筋道立てて書こうとする子（一年次）

【対話的】…児童相互に学び合おうとする子（二年次）

【深い学び】…新しい学びを既習と結び付けて問題を解こうとする子（三年次）

### (2) 研究仮説

本校の実態をもとに、今年度の研究仮説を下記のように設定した。

安心した学びの場で、自分の考えを持って児童相互の話し合いができれば、算数科を学ぶ楽しさを実感し、主体的・対話的に学び、考えを深められる児童の育成につながるだろう。

### (3) 研究方法の具体 研究三年次の具体的授業の展開は以下の通りである。

【深い学び】…単元末問題の実施（算数科）

- ・新しい知識及び技能を既習と結びつけた生活に生かせられる発展問題（原勤問題）を単元末に取り入れる。